



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.64
六甲山の履歴書
/安井 裕二郎
2008年7月発行

第64回テーマ:

六甲山の履歴書^{あしあと} ～刻まれた足跡～

講演内容

- 明治期の外国人の関心（自然・スポーツ）と日本人の関心（水・温泉）
- 大正期の日本人の関心（登山）
- 昭和期のスポーツ熱と
電鉄会社の開発熱
- 戦後のモータリゼーションの足跡

実施日：平成20年

7月19日（土）

午後1時～3時45分

場所：六甲山自然保護センター



講師：安井 裕二郎さん
プロフィール

1956年生まれ 52歳、芦屋市出身。慶應義塾大学商学部卒業後大阪国税局に勤務。2006年ジャパンメモリー(株)を設立し独立。祖父が大正元年(1912)に元町で「安井写真機店」創業、その残された写真を研究し、日本の近代史に関心を抱く。



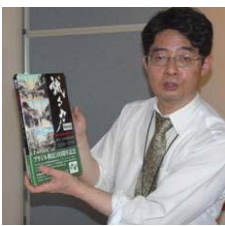
造成中のドライブウェイを走るオートバイ
(安井光三撮影、大正13年頃)

梅雨明けの六甲山は夏真っ盛り

梅雨明けの六甲山は好天に恵まれました。表六甲ドライブウェイ沿いは、フサフジウツギの紫やネムノキの白とピンクの花が鮮やかでした。自然保護センターの温度計は29℃まで急上昇し、夏真っ盛りです。今回のセミナーは、新聞や図書館でのチラシを見て初参加された方など11名を含む36名の参加者で大変にぎわいました。

神戸の近代史を探究される安井さん

今回は、神戸の近代史に詳しいジャパンメモリー(株)代表取締役の安井さんにお話をお聞きしました。祖父の遺業の跡を引き継いで、写真や絵はがきを収集し、本年1月には、日本の近代史の研究結果をまとめた著書『識る力ー神戸元町通で読む70章』を出版されました。また、地域活性化の企画プロデュースするお世話もされています。



著書を手元に安井さん

講演のために、明治時代から現在までの六甲山の移り変わりを年表にまとめて配布されました。

写真で紐解いた六甲山の足跡

六甲山系として、西から諏訪山、再度山、摩耶山、六甲山ととらえています。六甲山系の近代史は5期に分けられるとのこと。西の山麓の諏訪山にはかつて温泉があり、賑わっていました。公園も整備されて、六甲山麓の開発は諏訪山が発端になっています。

その後、急激な都市化などにより、東にある六甲山が注目されるようになりました。阪急、阪神、神鉄の各電鉄会社が競うように開発を進めました。道

路やケーブル、ロープウェイの整備も行われ、交通の便が整えられました。六甲山ホテルなどの宿泊施設も建設され、昭和9年から12年が六甲山の戦前の最盛期でした。

これらの5期にわたる六甲山系の開発の節目を中心に、写真や絵葉書などを基にわかりやすく解説していただきました。

六甲山の近現代史が集まった

今回の市民セミナーを含めると、六甲山の近現代史をテーマにした9編の講演報告が集まりました。(第7回、11回、31回、43回、46回、47回、48回、58回参照)名所図会、外国人との関わり、六甲山開発史、六甲・摩耶山の活性化についてなど、それぞれの切り口は異なりますが、六甲山にちなむ歴史と文化の深さと広がり蓄積できたことが実感できます。

これらの知的財産を整理し統合することによって、六甲山の魅力再発見の近現代史を描くことができそうだと期待をふくらませました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 安岡 愛子さん

近代から現代までの六甲山の歴史を昔の写真や絵はがきをたくさん見せて頂きながら説明を受け、とても面白かったです。

再認識したことは下界の政治経済状況が如実に六甲山の自然や施設に影響してきた(している)ということでした。誰もが手軽に訪ねられる自然豊かなゴミのない活気ある六甲山にしていく、そんな歴史を作り継承していくために何をしたら良いか、光あふれる美しい緑を見つつ下山しました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、灘区役所

公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託TaKaRaハーモニストファンド